

土地分類基本調査

「横 山」

5 万分の1

国 土 調 査

岐 阜 県

1 9 9 4

序 文

この調査は、国土調査法に基づき国土の開発及び保全並びにその利用の高度化に資するために国土の実態を科学的かつ総合的に調査したものです。

本書は、平成4年度から平成5年度にかけて調査した5万分の1地形図「横山」について「横山」図幅として、取りまとめたものです。

この調査の実施に当たって協力いただいた関係各位に対し深く感謝申し上げますとともに、この成果が今後、県土の秩序ある発展を図るための企画・立案の基礎資料として広く活用されることを希望します。

平成7年3月

岐阜県企画部長 岩垣 儀一

ま え が き

1. 本調査は、岐阜県が国土庁土地局国土調査課の指導を得て、実施したものです。
2. 本調査の成果は、国土調査法施行令第2条第1項第4号の2の規定による土地分類基本調査図及び土地分類基本調査簿です。
3. 本調査の実施、成果の作成機関及び担当者は、下記のとおりです。

記

総括	岐阜県企画部地域振興課		
調査機関			
地形分類調査	岐阜大学教育学部	教授	関根 清
表層地質調査	〃	教授	梶田 澄雄
	〃	助教授	小井土由光
土壌調査	岐阜県農業総合研究センター	主任専門研究員	山田 偉雄
	岐阜県林業センター	主任専門研究員	中川 一
	〃	主任技師	川尻 秀樹
	〃	主任技師	茂木 靖和
土地利用 現況調査	岐阜大学農学部	教授	綱本 皓二

目 次

総 論

I 位置および行政区画	1
II 人 口	2
III 産 業	4

各 論

I 地 形 分 類	9
II 表 層 地 質	14
III 土 壤	18
IV 土地利用現況	29

位置図



		下梨	白木峰	有峰湖	槍ヶ岳
		白川村	飛騨古川	船津	上高地
	越前勝山	白山	三日町	高山	乗鞍岳
	荒島岳	白鳥	萩原	御岳山	木曾福島
冠山	能郷白山	八幡	下呂	元年度調査 加子母	元年度調査 上松
4年度調査 横山	3年度調査 谷汲	2年度調査 美濃	63年度調査 金山	62年度調査 付知	62年度調査 妻籠
42年度調査 長浜 (経企庁)	57年度調査 大垣	58年度調査 岐阜	48年度調査 美濃加茂 (経企庁)	61年度調査 恵那	61年度調査 中津川
59年度調査 彦根東部	59年度調査 津島	名古屋北部	58年度調査 瀬戸	60年度調査 明智	60年度調査 根羽
	59年度調査 桑名				

総

論

I 位置および行政区画

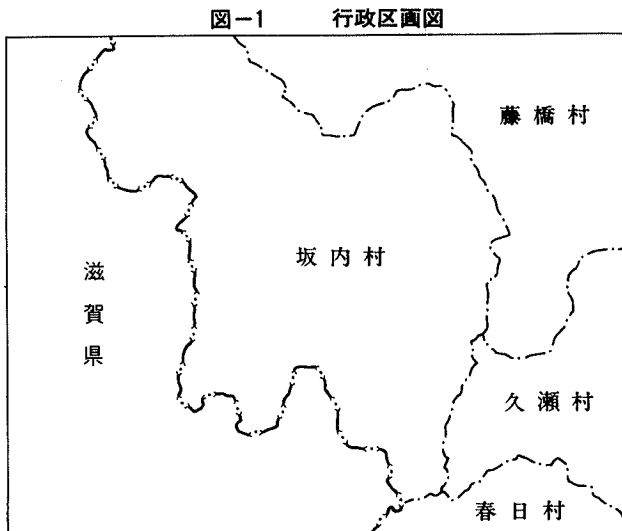
1. 位置

この調査の対象地域は建設省国土地理院発行5万分の1地形図の「横山」図幅である。

経緯度は、東経 $136^{\circ} 15'$ ～ $136^{\circ} 30'$ 、北緯 $35^{\circ} 30'$ ～ $35^{\circ} 40'$ の範囲である。

2. 行政区画

本図幅の行政区画は、春日村、久瀬村、藤橋村、坂内村の4村からなっている。(図-1 参照)



Ⅱ 人 口

調査区域にかかる4村の人口は5,178人（平成2年国勢調査）で県人口の0.3%を占めている。

これらの村では、昭和50年から平成2年までに2,848人減少しており、35.5%の減少である。

藤橋村の人口が急減しているのは、徳山ダムの建設に伴い全村離村となった徳山村が昭和62年に藤橋村に合併されたため、表-1では昭和50年から昭

表-1 人口

区 分 行政区域	昭 和 50 年		昭 和 55 年		昭 和 60 年	
	人 口 (人)	世帯数 (戸)	人 口 (人)	世帯数 (戸)	人 口 (人)	世帯数 (戸)
春 日 村	3,010	803	2,808	780	2,523	734
久 瀬 村	1,983	543	1,897	547	1,766	522
藤 橋 村	2,021	726	1,946	847	1,087	494
坂 内 村	1,012	363	864	332	814	323
計	8,026	2,435	7,515	2,506	6,190	2,073
県 計	1,867,978	483,766	1,960,107	539,740	2,028,536	567,946

和60年の旧徳山村分の数値を藤橋村に加えていることによるものである。

旧徳山村の徳山ダム建設による全村離村を考慮しても、これら4村では昭和50年から平成2年までに10%以上の人口が減少しており、過疎化がかなり進んでいる。(表-1)

平成2年		人口増減(人)			人口増減率(%)		
人口 (人)	世帯数 (戸)	50~55年	55~60年	60~2年	50~55年	55~60年	60~2年
2,304	690	△ 202	△ 285	△ 219	△ 6.7	△ 10.1	△ 8.7
1,702	497	△ 86	△ 131	△ 64	△ 4.3	△ 6.9	△ 3.6
422	181	△ 75	△ 859	△ 665	△ 3.7	△ 44.1	△ 61.2
750	306	△ 148	△ 50	△ 64	△ 14.6	△ 5.8	△ 7.9
5,178	1,674	△ 511	△ 1,325	△ 1,012	△ 6.4	△ 17.6	△ 16.3
2,066,569	602,906	92,129	68,429	38,033	4.9	3.5	1.9

資料 国勢調査結果による

(昭和50年から60年までの藤橋村の数値には、旧徳山村分を含めている。)

Ⅲ 産 業

1 農林業

地域内4村の総農家数は906戸で、県下総農家数の約1%にあたる。専業農家の割合は、県平均を大きく上回り16.4%となっている。また、経営耕地面積は426haで、県下総耕地面積の0.6%を占めており、農業粗生産額は県下全体の0.3%となっている。

この地域の農業粗生産額の生産種別構成を県下全体と比較すると、工芸農作物が高く、米や野菜はやや高い程度で、畜産その他は非常に低くなっている。市町村別の特色をみると、久瀬村、藤橋村、坂内村で米、野菜が全体の7割以上を占め、春日村では茶の構成比が高くなっている。(表-2)

表-2 農業の概要

区分 行政 区域	農 家 数				経営耕 地面積 (ha)	農業粗生産額 (百万円)				
	総 数 (戸)	専 業 (戸)	兼 業 (戸)	専 業 率 (%)		総 額	米	野菜	畜産	その他
春日村	402	53	349	13.2	158	178	26	51	53	48
久瀬村	291	42	249	14.4	148	121	54	36	6	25
藤橋村	37	12	25	32.4	17	22	7	12	-	3
坂内村	176	42	134	23.9	103	107	58	33	-	16
計	906	149	757	16.4	426	428	145	132	59	92
県 計	99,394	6,495	92,899	6.5	65,700	152,821	46,771	39,365	1,928	64,757

資料 岐阜県農林水産統計年報 (平成5~6年) による

(農家数は、「1990年世界農林業センサス」結果による)

(兼業農家には、自給的農家を含んでいる。)

林業については、地域内の村の林野面積が66,454haで県下林野面積の7.6%を占めている。

また、民有林の比率は91.8%と県平均の79.0%を大きく上回っているが、民有林のうち人工林の比率は春日村で県平均とほぼ同じであるものの、その他の村では低く、この地域全体では県平均の43.7%を4割程度下回っている。

(表-3)

表-3 林業の概要

行政区 区域	林 野 面 積 (ha)				林 家 数 (戸)
	総 数	国 有 林	公 有 林	私 有 林	
春 日 村	10,903	470	430	10,003	374
久 瀬 村	8,923	163	1,508	7,251	317
藤 橋 村	31,518	2,478	4,870	24,170	66
坂 内 村	15,110	2,338	2,069	10,703	190
計	66,454	5,449	8,877	52,127	947
県 計	869,216	182,106	69,771	617,338	64,537

資料 平成4年度岐阜県林業統計書による

林家数は、「1990世界農林業センサス、林業事業体調査」の結果による

2 工 業

この地域の事業所数は44事業所で、従業員数は310人となっている。また、年間製造品出荷額は約25億円で、県全体の0.05%である。

事業所当たりの平均従業員数は 7.0人で、県平均の11.0人を下回っており、従業員一人当たりの製造出荷額も 799万円で、県平均の 1,987万円をかなり下回っている。(表一4)

表一4 工業の概要

区分 行政区域	事業所数				従業者数(人)			年間製造品 出荷額等 (百万円)
	総数	会社	組合 その他 の法人	個人	総数	常 勤 用 者	個人事業 主及び 家族 従業員	
春日村	22	2	6	14	132	111	21	421
久瀬村	15	6	—	9	95	*	*	794
藤橋村	4	3	—	1	41	*	*	708
坂内村	3	3	—	—	42	42	—	553
計	44	14	6	23	310	*	*	2,476
県計	25,150	9,078	259	15,813	277,348	251,813	25,535	5,510,403

資料 平成5年工業統計調査結果による

3 商 業

商店数は、57店舗で卸売業はなく小売業のみである。また、従業員一人当たりの年間販売額は 840万円で、県平均の 3,624万円を大きく下回っている。

(表—5)

表—5 商業の概要

行政 区域	商 店 数			従 業 者 数 (人)	年 間 販 売 額 (百万円)
	総 数	卸 売 業	小 売 業		
春 日 村	24	—	24	55	521
久 瀬 村	20	—	20	31	198
藤 橋 村	5	—	5	9	38
坂 内 村	8	—	8	13	151
計	57	-	57	108	903
県 計	37,335	8,337	28,498	179,785	6,515,201

資料 平成3年商業統計調査結果による（代理商・仲立業を除く）

各論

I 地形分類

1 地形概説

日本はユーラシア大陸の東端部に位置し、アジアプレートと太平洋プレート・フィリピンプレートとの会合部に位置する弧状列島からなっている。そのために東北地方から中部地方を経て、近畿地方北部に至る地域は、ほぼ東西方向の最大圧縮応力場に位置する地域といえる。それ故に、日本アルプス以西の地域から中国山地の東部地域にかけては、南北方向に軸をもつ東高西低の曲隆・曲降の構造地形がみられる。これらの曲隆・曲降地域は約70～100 km幅の波長をもって分布している。即ち、日本アルプス、両白山地、比良山地、但馬山地などが曲隆部の地塊に位置し、飛騨高原から美濃・三河高原、琵琶湖、敦賀湾から水上盆地などが曲降部の地塊に位置しているといわれている。

このように中部地方から近畿地方北部にかけての地域における大地形はこれらの曲隆・曲降の地殻運動によって形成された地形であり、ほぼ南北方向にその軸をもち、東西方向に交互に配列する特徴を示している。

美濃越前山地は富山から伊勢湾に至る曲降性の凹地部の西に、南北に連なる曲隆性の山地、両白山地の南部に位置しているが、本図幅の地域はこの美濃越前山地の南端部を形成する地域である。微視的には美濃越前山地内を流れる揖斐川本流沿いの西部源流地域に当たる。美濃越前山地の南端部（本図幅より南部の山地）では適応単位丘的な孤立化の顕著な丘陵性山地が認められ、晩壯年期山地の様相を呈するものの、美濃越前山地は能郷白山（1,617m）を主峰とし、それらの頂稜部が海拔高度1,200～1,400m内外の定高性の壯年期山地であり、急峻な山稜と深いV字谷からなっている。これに加えて、本図幅内の山地や河谷は中部地方の地殻運動や断層運動の特徴を反映して、山塊化が進み複雑な山谷を呈しているが、全体的には北西～南東、北東～南西方向及び南北方向に配列する特徴を有している。

本図幅の山地は主に中・古生界の砂岩、泥質岩、チャートなどの互層からなる地質構造が、この地域の断層運動と相俟って、風化・侵蝕に対する抵抗

性の差異を反映させて、山塊ごとに複雑な山地地形を形成している。

2 山地・丘陵

本図幅の山地は上述したように富山から伊勢湾に至る曲隆性の凹地部の西に、南北に連なる曲隆性の山地、両白山地の南端部に位置し、微視的には美濃越前山地内を流れる揖斐川本流沿いの西部源流地域を形成する地域である。本図幅内では1,200m内外の高度から700m内外の定高性の山地を形成しているが、概略的には北高南低の山地であり、山地や山地内の河谷は中部地方の断層運動の特徴を反映して、全体的には北西～南東、北東～南西方向及び南北方向に流れる特徴を有する。このために、本図幅内の美濃越前山地はこれらの河谷によって区分された小山塊に細分される。

ここでは、本図幅内の山地を便宜的に、美濃越前山地、谷汲山地、春日山地の名称を用いて細分した。

- (1) 美濃越前山地の主要部からなる山地……………美濃越前山地 (a)
- (2) 揖斐川本流と根尾川にはさまれた美濃越前山地の南部山地……………谷汲山地 (b)
- (3) 揖斐川と伊吹山地にはさまれた山地……………春日山地 (c)

(1) 美濃越前山地 (a)

美濃越前山地は能郷白山 (1,617m) を主峰とし、それらの頂稜部の海拔高度が1,400～1,200m 内外の定高性の壮年期山地からなり、日本海側と太平洋側との地形的・気候的分水嶺を形成している山地であるが、本図幅にはそのうちの南部に位置し、福井・滋賀・岐阜の3県にまたがる三国岳、土蔵岳、蕎麦粒山や五蛇池山など1,200m内外の山地が含まれている。山稜線や河谷の方向は全体的には北西～南東、北東～南西と南北方向のものが卓越している。

(2) 谷汲山地 (b)

ここでは便宜的に揖斐川本流と根尾川にはさまれた山地を、谷汲山地と呼称することとする。本図幅にはその内の北西部山地が位置している。この山

地は南端部において高度400m以下の丘陵性山地からなるが、北西方向に向けて高度を増加させ、北西部で海拔高度1,157mの権現山のように1,100m内外の山地となっている。南東端の山地は石灰岩からなるために、採掘され、著しく人工的改変が進んでいる。

小丘陵化の進んだこの山地の南端部では、断層運動やその後の侵蝕によって変化に富んだ山麓線を形成している。この複雑な山麓線と揖斐川、根尾川の形成した台地との間には軟弱地盤からなる地形が認められる。また、断層起因と考えなければならぬ幅広い谷底平野や山間小谷底の地形が多数存在し、深坂なる地名からも理解されるように有機物に富んだ泥質の軟弱地盤の地形も認められる。

(3) 春日山地 (c)

伊吹山と揖斐川本流と揖斐川の支流坂内川にはさまれ、坂内村、久瀬村、春日村、垂井町、揖斐川町、池田町にまたがる南北稜の山地である。この山地には海拔高度1,317mの金糞岳1,234mの貝月山などの山々が位置している。地質的には花崗岩と中・古生界の砂岩、チャート、粘板岩、石灰岩などからなる山地である。この山地内を流れる粕川は、南北山稜の山地内を直角方向に横谷を形成しながら東流し、濃尾平野で揖斐川に合流している。

この山地の南部には小島山、池田山など、海拔高度900～800m付近に平頂峰をもつ定高性山地からなるが、山腹斜面は30度以上の急斜面からなるところも多く、起伏量的には400～700m/km²になっている。

この山地の東端は高度差 数100m の急峻な池田山断層崖を形成して濃尾平野に落ち込んでいる。この急斜面には断層を想定させるリニアメントや三角末端面などの活断層地形が存在する。

この山地の南東部を北東から南西方向に位置する断層線（梅谷越え沿いの断層）以南の山地は石灰岩からなり、赤坂へ向かって山地は人工的に著しく改変されている。

3 台地

本図幅内の台地は、揖斐川本流と支流の坂内川・日坂川・西谷沿いの山間地に分布する河岸段丘と、支流の河谷斜面下部から谷底部に堆積し、段丘化した小規模扇状地（含む、沖積錐）からなる砂礫台地である。

ここでは、これらの台地を便宜的に河谷に着目した台地名で呼称することとする。

- (1) 揖斐川本流河谷内の河岸段丘・扇状地
からなる台地……………揖斐川本流台地 (a)
- (2) 日坂川河谷内の河岸段丘・扇状地から
なる台地……………日坂川台地 (b)
- (3) 坂内川河谷内の河岸段丘・扇状地から
なる台地……………坂内川台地 (c)
- (4) 西谷河谷内の河岸段丘・扇状地から
なる台地……………西谷台地 (d)

(1) 揖斐川本流台地 (a)

この台地は揖斐川本流河谷内に形成された河岸段丘と扇状地からなる砂礫台地である。この台地は横山ダムを介在させて、本図幅の北西端と西端部に分かれて位置している。

(2) 日坂川台地 (b)

この台地は下流端に峡谷部を形成して揖斐川本流に合流する河岸段丘と小規模扇状地からなる砂礫台地である。貝月山斜面からこの台地面を利用してスキー場開発されている台地でもある。

(3) 坂内川台地 (c)

この台地は本図幅の中央から西部にかけて分布する坂内川流域の河岸段丘と小規模扇状地からなる砂礫台地である。

(4) 西谷台地 (d)

この台地は揖斐川源流域の一支谷、西谷流域内に形成された河岸段丘と小規模扇状地からなる砂礫台地である。本図幅内には北端部に一部この台地が分布している。

Ⅱ 表層地質

1 表層地質概説

本図幅地域に最も広く分布しているのは固結堆積物の美濃帯中・古生層であり、これを貫入する花崗岩の分布も広い。

美濃帯中・古生層の基本構造は西隣図幅の「谷汲図幅」から連続している。

「玄武岩溶岩および火山性砕屑岩」の分布の南限は地形等高線と低角度で交差していることと、岩相の対比が際立っていることから低角の衝上断層と考えられる。他の広く分布する岩層についても隣合う岩層との境界が同様の傾向を示すことからこれらも低角の衝上断層の可能性が高い。したがって本来は断層として図示しなければならないが、「谷汲図幅」でも述べたように、この地質図は岩層分布を表示するのが主たる目的であるのと、そのような関係が明らかに認められる場合と、そうでない場合との区別が困難なことが多いので明示しなかった。

相離れて分布する「玄武岩溶岩および火山性砕屑岩」は岩相の類似と挟まれる石灰岩中の化石の類似によって、本来一連の堆積物であったものが低角の断層によって切り離されたものと考えられる。地質断面図にも見られるように見掛上は「泥質岩」の上位に位置する場合があるが、「玄武岩溶岩および火山性砕屑岩」が大洋プレートの床に当たるものであり「泥質岩」はその上の堆積物であることから低角の衝突断層による層序の逆転を認めなければならない。

図幅北西部において土蔵岳を通り北東方向にのびる高角断層を境にして北西側には塊状の粗～中粒砂岩が広く分布し、南東側とは大きく岩相を異にする。この砂岩層は北隣の「冠山」図幅にも広く分布する。岩相だけでなく地質構造も断層の南東側とは大きく異なる。

図幅南部には貝月山を最高点とした高原地形が見られる。ここに花崗岩の広い分布が見られる。この花崗岩は周りの中・古生層に熱変成を与えている。また南北方向の高角断層によって大きく変位を受けている。

2 表層地質細説

(1) 未固結堆積物

a) 礫がち堆積物 (g₂)

この図幅で礫がち堆積物としたものは、揖斐川・坂内川およびそれらの支谷を埋積して分布する河岸段丘堆積物である。ほとんどが耕作地あるいは宅地として利用されている。礫と砂からなる。礫はかたいが堆積物全体としてはやわらかい。

b) 碎屑物 (cl)

各河川の支谷を埋め立てている崖錐堆積物である。大量出水の際形成されたもので、傾斜地を形成している。淘汰の悪い角礫・砂・粘土からなる。礫はかたいが堆積物全体はやわらかい。

(2) 固結堆積物

a) 砂岩 (ss)

図幅の南東辺と北西部にそれぞれ別かれて分布する。分布範囲は狭い。南東辺に分布するものは砂岩優勢の砂岩・泥岩互層であるのにたいし、北西部に分布するものは塊状の粗粒砂岩で頁岩の小パッチを含むことが多い。砂岩であるが風化が進みもろくなっている所もある。

b) 泥質岩 (sh)

図幅内では最大の分布をしている。泥質岩優勢の泥岩・砂岩互層の崩壊したものが圧倒的に多く、均質な泥質岩は少ない。風化が進みもろくなっていることが多い。図幅に図示できるほどの規模のチャートの薄層を挟むことが多い。

本来は「はなはだかたい」岩石であるが風化が進み非常にもろくなっていることが多い。

c) チャート (ch)

五蛇池山・蕎麦粒山付近の地形的高所に広範囲に分布するものと、泥質岩や「玄武岩溶岩および火山性碎屑岩」中に小レンズとして挟まれるものがある。極めて強硬で風化に強いためチャートの分布域は急峻な山地を成すことが多い。地形図上に露岩の記号のあるところはチャートであることが多い。厚さ3～5cmの層が薄い泥質部をはさんでくりかえし互層し、小褶曲をすることが多い。

d) メランジ (ms)

図幅南西部にわずかに分布する。泥質の基質中にチャートなどのブロックが雑然と入っている。成因についてはいろいろ考えられるが、図幅内のは海底での地滑りによるものであろう。

e) 石灰岩 (ls)

玄武岩溶岩および火山性碎屑岩中に小岩体として挟まれる。

f) 玄武岩溶岩および火山性碎屑岩 (sch)

かつての大洋底に噴出した玄武岩溶岩と凝灰質碎屑物の残片と考えられている。緑灰色のことが多く、かつては輝緑凝灰岩と呼ばれていた。その色調から単に緑色岩と呼ぶことが多い。

本来「はなはだかたい」岩石であるが風化が進み「もろく」なっていることが多い。

(4) 深成岩

a) 花崗斑岩 (Gp)

図幅南東部に広く分布し、周りの岩石に熱変質を与えている。一般に中～粗粒雲母花崗岩よりなり、一部には数多くのペグマタイトの小レンズおよびアプライト脈を有する。本来は「はなはだかたい」岩石であるが、風化の進んでいるところでは「マサ」化し、緩傾斜地を形成している。

3 資 料

- 1) Hattori,I (1967) Lithology and Markov analysis of the paleozoic strata in the Fujibashi area, Gifu Prefecture, Central Japan.Jour. Geol.Soc.Japan,vol.82,p.19-33.
- 2) 梶田澄雄 (1963) 揖斐川上流地域の地質、岐阜大学学芸学部研究報告 vol.13,p.192-200.
- 3) 宮村 学 (1965) 岐阜県揖斐郡横山地区の古生層。地質雑、vol.71,p.5-17.
- 4) 脇田浩二 (1985) 美濃帯中・古生界における研究史と最近の研究動向。地球科学、vol.39,p.18-30.
- 5) Wakita,K (1988) Origin of chaotically mixed rock bodies in the Early Jurassic to Early Cretaceous sedimentary complex of the Mino terrane,central Japan. Bull.Geol.Surv.Japan,vol.39,p.675-742.

Ⅲ 土 壤

林 地 土 壤

本図幅の地形は、全域が美濃山地で、標高約1,000～1,300mの山々が広がる。図形で標高の最も高い金糞岳は、1,317mで南西に位置する。河川は、全て揖斐川水系である。図形の東部を揖斐川が南に流下する。中央部を坂内川が東に流下し、東部中央で揖斐川に合流する。図幅で標高の最も低い位置は、東部中央の揖斐川で標高約120mである。

地質は、図幅の東、北、西部に中生界の堆積岩が広く分布する。図幅の南部には、花崗岩が分布する。

本図幅に出現する土壌は、地形、地質構造と密接な関係を示し、表-1 土壌統一覧表のとおり5土壌群、8土壌統群に分けられる。褐色森林土が図幅全体に広く分布し、大部分の面積を占めている。岩石地は、崩壊地等の露岩地に分布する。岩屑土は、溪床や急傾斜な岩盤の下部に分布する。黒ボク土は、山麓の緩斜面に分布する。ポドゾルは、標高約1,000mを越える山地の尾根に分布する。

1 岩石地

岩石地は、崩壊地の場合が多くチャート、石灰岩等の露岩地である。植生は、少なくネジキ、ススキ、タニウツギ、ウツギ、ヤマハギ、ウスノキ、リョウブ等が散生する。図幅全体に小面積分布する。

2 岩屑土

岩屑土は、岩屑性土壌であり、堆積岩の崖錐下部および溪床に分布する。数cm～数十cmの角礫が厚く堆積する。植生は、疎林で、タニウツギ、リョウブ、クマイチゴ、ケヤキ、ススキ等が生育する。図幅の西部に小面積分布する。

3 黒ボク土

黒ボク土は、黒ボク土壌が分布し、山麓の緩斜面に分布する。植生は、スギ、ヒノキ人工林が多い。下層植生は、アオキ、イヌツゲ、コシアブラ、ハナイカダ、コアジサイ、ワラビ、トウゲシバ等が生育する。

(1) 黒ボク土壌

黒ボク土壌は、Bl₀(d)、Bl₀型土壌が多く分布する。A層は、30cm以上と厚く、明度1～2と黒い。A層の構造は、団粒状構造または堅果状構造を示すことが多い。土性は壤土から砂質壤土である。土壤生産力は高いが、ヒノキ人工林では徳利病が発生することが多い。図幅の南部に小面積分布する。

4 褐色森林土

褐色森林土は、3土壌統群あり、図幅の大部分を占める。乾性褐色森林土壌は、山地の尾根に分布する。褐色森林土壌は、山地の斜面に広く分布する。湿性褐色森林土壌は、斜面下部に小面積分布する。

(1) 乾性褐色森林土壌

乾性褐色森林土壌は、B_A、B_B、B_C型土壌に相当し、貝戸1統、日坂1統の2統が分布する。土層上部は、乾性な細粒状、粒状、堅果状構造が発達する。そのうち堅果状構造が発達するB_C型土壌が多く分布する。土壤生産力は低い。

植生は、広葉樹林となることが多い。混交する上木は、ブナ、イヌツゲ、ミズナラ、コナラ、クリ、タカノツメ、リュウブ、タムシバ、アタマツ、ヒノキ等である。下層植生は、ナナカマド、エゾユズリハ、ヤマツツジ、シロモジ、ベニドウダン、コミネカエデ、ササ類、ヤマソテツ、シノブカグマ、イワウチワ等が生育する。

① 貝戸1統

主に中生界の堆積岩を母材として、山地の尾根に分布する残積性の土壌である。A₀層は、L、F、H層が発達する。土性は、埴質壤土が多い。図幅の

全体に分布する。

② 日坂1統

主に中生界の花崗岩を母材として山地の尾根に分布する残積性の土壤である。A_o層は、5 cmと比較的厚く、L、F、H層が発達する。土性は埴質壤土が多い。図幅の中、南部に分布する。

(2) 褐色森林土壤

褐色森林土壤は、B_D、B_D(d)型土壤に相当し、貝戸2統、日坂2統の2統が分布する。A層は、比較的厚く、団粒状構造が発達することが多い。土壤生産力が高い。

植生は、天然広葉樹林、スギ、ヒノキ人工林が多い。広葉樹林には、ブナ、コナラ、ミズナラ、シデ類、クリ、サクラ類等が生育する。下層植生は、バヤカツツジ、ウラジログシ、フユイチゴ、ハイイヌガヤ、クロモジ、ヤマブキ、イノコズチ、ミズヒキ、ジュウモンジシダ等が生育する。

① 貝戸2統

主に中生界の堆積岩を母材として、山地の斜面に分布する。A_o層は、一般にあまり発達しない。A層は、斜面上部、中部で塊状構造、斜面下部で団粒状構造が発達することが多い。土性は埴壤土が多い。図幅全体に分布する。

② 日坂2統

主に中生界の花崗岩を母材として、山地の斜面に分布する。A_o層は、およそ10cm以下である。A_o層が5 cm以上と厚い土壤は、A層で、塊状構造、粒状構造、団粒状構造、B層で団粒構造が発達することが多い。A_o層の発達しない土壤は、A、B層で団粒状構造が発達する。土性は砂質壤土から埴質壤土である。図幅の中、南部に分布する。

(3) 湿性褐色森林土壌

湿性褐色森林土壌は、B_E、B_F型土壌に相当する。分布は小面積である。B_E型土壌は、A_o層の分解が早くF層が薄い。A層は、団粒状構造で黒色の強い厚さ30cm以上土壌である。また、埋没土層が多く現れる。土性は砂土から壤土である。土壌の生産力は高いが、ヒノキ人工林では徳利病が発生する。植生は、広葉樹林、スギ人工林が多い。広葉樹林の上木には、トチノキ、ケヤキ、カツラ、オニグルミ、イタヤカエデ等が生育する。下層植生は、ヤマブキ、フサザクラ、キブシ、アカソ等が生育する。B_F型土壌は、A_o層の発達が悪くF層が薄い。A層は色が淡く発達が悪い。B層はカベ状構造で灰色を呈する。土壌生産力は低い。植生は、疎林が多く、下層にはクサソテツ、ウバユリ、タニウツギ、アザミ類、ヨモギ類等が生育する。

5 ポドゾル

ポドゾルは、A層に溶脱層、B層に集積層が認められる寒冷地の土壌で乾性ポドゾル化土壌、湿性ポドゾル化土壌がある。標高約1,000mを越える山地の尾根に分布する。

植生は、ブナ林、笹生地、低木林が多い。ブナ林に混交する上木は、タカノツメ、タムシバ等である。ブナ林の下層植生、低木林には、シャクナゲ、ゴヨウツツジ、ヒメアオキ、ナナカマド、アカミノイヌツゲ、タムシバ、ベニドウダン、サラサドウダン、イワウチワ、イチヤクソウ、マンネンスギ等が生育する。

(1) 乾性ポドゾル化土壌

乾性ポドゾル化土壌は、P_{DB}、P_{DBM}型土壌が多く分布する。A_o層は、気温が低く、尾根の乾燥地のため落葉落枝が分解し難く、厚いF、H層が発達する。H層は、黒赤褐色、粒状である。B層上部には、下部よりもやや黒色の強い、鉄錆色の集積層が発達する。土性はA層では壤土から砂質壤土、B層では埴土となる。土壌の生産力は非常に低い。図幅の北西部に小面積分布する。

(2) 湿性ポドゾル化土壌

湿性ポドゾル化土壌は、 $P_{w(h)I}$ 、 $P_{w(h)II}$ 、 $P_{w(h)III}$ 型土壌に相当する。A₀層は、尾根で標高が高く気温が低いため落葉落枝が分解し難く、黑色脂質の厚いH層が発達する。A層上部は、多量の腐植を含むため黒色が強い。B層上部は、腐植が富化された暗鉄錆色の集積層が発達する。土性は埴土である。土壌の生産力は非常に低い。図幅の北西部に小面積分布する。

表一 土壌統一覧表

土 壌 群	土 壌 統 群	土 壌 統	母 材	地 形
岩 石 地	岩 石 地	—	—	—
岩 屑 土	岩 屑 性 土 壌	—	—	崖錐の下部、溪床
黒ボク土	黒ボク土壌	—	—	山地下部緩斜面
褐色森林土	乾性 褐色森林土壌	貝戸1統	中生界堆積岩	山地尾根
		日坂1統	花崗岩	山地尾根
	褐色森林土壌	貝戸2統	中生界堆積岩	山地斜面
		日坂2統	花崗岩	山地斜面
	湿性 褐色森林土壌	—	—	山地斜面下部
ポドゾル	乾性 ポドゾル化土壌	—	—	山地の尾根
	湿性 ポドゾル化土壌	—	—	山地の尾根

農 地 土 壤

1. 地域の概要

本地域は、岐阜県の西北端に位置し、坂内村、藤橋村の大半、春日村・久瀬村の西部からなっており、北西部は滋賀県、福井県と接している。この4村全域における全面積に対する土地利用状況は、約99%以上が林野によって占められているため、耕地面積はきわめて少ない。それぞれの村の農地割合は、春日村1.4%、久瀬村1.6%、藤橋村0.1%以下、坂内村0.7%といずれもきわめて少ない。

これら農地のうち、水田の大部分は揖斐川沿いに、また、畑地および茶園地は山麓傾斜地に分布しており、それぞれ水稻・野菜・茶等が栽培されている。

農地土壌は、地形、地勢から面積が少ないため、比較的土壌群の種類も少ない。水田土壌では、多湿黒ボク土、褐色低地土、灰色低地土、グライ土が分布している。

一方、畑地土壌では、黒ボク土、黄色土が主体となっており、一部岩屑土が山間地に散在している。

2. 土壌統群の分布

岩屑土は、久瀬村の揖斐川沿いの山麓傾斜地の一部および藤橋村の山間地にわずかばかりみられ、畑地として利用されている。

畑地として利用されている黒ボク土のうち、厚層腐植質黒ボク土は久瀬村の一部、藤橋村の南東部の一部及び坂内村に分布し、坂内村では同土壌統群が畑地の大半を占めている。表層多腐植質黒ボク土は、春日村、久瀬村、坂内村に分布し、久瀬村では同土壌統群の畑地の約半分を占めている。

水田土壌として利用されている多湿黒ボク土のうち、厚層腐植質黒ボク土は久瀬村、藤橋村及び坂内村のそれぞれ一部に分布する。表層腐植質黒ボク土は、春日村、久瀬村、藤橋村、坂内村に広く分布し、特に坂内村では水田土壌の55%以上を占めている。

黄色土は春日村、久瀬村、藤橋村、坂内村に広く分布し、いずれも細粒黄色土で、畑地に利用されている。藤橋村の畑地の大半が同土壌統群である。

褐色低地土は細粒褐色低地土が久瀬村に広く、坂内村の一部にそれぞれ分布し、水田に利用されている。水田面積の大半を占める灰色低地土は、中粗粒灰色低地土・灰色系及び礫質灰色低地土・灰色系は春日村、久瀬村、藤橋村の大半に、坂内村の一部にそれぞれ分布している。特に、藤橋村では、礫質灰色低地土・灰色系が最も多い。

グライ土は礫質強グライ土、細粒グライ土が坂内村の中心の一部にわずかに分布し、水田に利用されている。

3. 土壌群別細説

(1) 岩屑土 (01)

土性は、強粘質～壤質。30cm以内から砂礫層となり、山地・丘陵地斜面に分布する。排水は極めて浅く、桑園・樹園地等に利用されるが、表土の厚さ、有機物含量・養分の供給保持力・保水力等の面で欠陥が認められる。

(2) 黒ボク土 (03, 04)

土性は、壤質～粘質。腐植含量は富む～すこぶる富む。母材は火山噴出物からできた土壌で、保肥力が低く、燐酸や塩基類が乏しい (03)。多湿黒ボク土 (04) は、台地凹部又は沖積低地凹部に分布し、不良な排水条件にできた土壌である。

(3) 黄色土 (10)

土性は、強粘質～壤質。腐植含量は少ない。土色は黄色味が強く、丘陵地に分布し、強酸性で塩基性に乏しい。この土壌は保肥力、養分供給力等に基本的な欠陥が認められる。

(4) 褐色低地土 (12)

土性は、強粘質・粘質・壤質・砂質で変化が大きい。土色は、ほぼ全層が褐色を示し、微高地に分布し、排水が良く、腐植含量が少ない。

(5) 灰色低地土 (13)

土性は、強粘質・粘質・壤質・砂質で変化が大きい。土色は、ほぼ全層が

灰色又は灰褐色を示す。沖積地帯に分布するが、グライ土に比べて地下水位が低く、排水が良く、腐植含量が少ない。この土壤は保肥力が強くて養分供給能に富む。

(6) グライ土 (14)

土性は、強粘質・粘質・壤質・砂質で変化が大きい。土色は、青灰色で、グライ層が現れる位置で細分化される。沖積地帯に分布し、排水が悪く、腐植含量は一部を除いて少ない。

4. 市町村別土壤統群面積一覧表

(1) 水田の部

市町村名	土壤群名	土 壤 統 群 名	土壤群 番 号	分布面積 (ha)	備 考
春日村	多湿黒ボク土	表層腐植質多湿黒ボク土	0430	3	当図幅における 分布面積は左記 の分布面積の一 部である。(当 図幅にない土壤 統は左記の記載 を省いた。)
	灰色低地土	中粗粒灰色低地土、灰色系	1308	13	
		礫質灰色低地土、灰色系	1312	3	
久瀬村	多湿黒ボク土	厚層腐植質多湿黒ボク土	0409	19	同上
		表層腐植質多湿黒ボク土	0433	3	
	褐色低地土	細粒褐色低地土、斑紋あり	1210	29	
	灰色低地土	中粗粒灰色低地土、灰色系	1308	27	
		礫質灰色低地土、灰色系	1311	3	
		◇	1312	5	
灰色低地土、下層黒ボク		1324	5		
藤橋村	多湿黒ボク土	厚層腐植質多湿黒ボク土	0409	18	同上
		表層腐植質多湿黒ボク土	0432	2	
		◇	0433	6	
	灰色低地土	中粗粒灰色低地土、灰色系	1308	6	
		礫質灰色低地土、灰色系	1311	9	
		◇	1312	51	
坂内村	多湿黒ボク土	厚層腐植質多湿黒ボク土	0409	17	
		表層腐植質多湿黒ボク土	0423	3	
		◇	0433	59	
		◇	0435	2	
	褐色低地土	細粒褐色低地土、斑紋あり	1210	3	
	灰色低地土	中粗粒灰色低地土、灰色系	1308	2	
		礫質灰色低地土、灰色系	1312	15	
	グライ土	礫質強グライ土	1413	5	
細粒グライ土		1418	1		

(1) 畑地の部

市町村名	土壌群名	土 壤 統 群 名	土壌群 番 号	分布面積 (ha)	備 考
春日村	黒ボク土	表層腐植質黒ボク土	0313	5	当図幅における分布面積は左記の分布面積の一部である。(当図幅にない土壌統は左記の記載を省いた。)
	黄色土	細粒黄色土	1002	12	
久瀬村	岩屑土		0101	15	同上
	黒ボク土	厚層腐植質黒ボク土	0308	15	
		表層多腐植質黒ボク土	0313	45	
	黄色土	細粒黄色土 ク	1002	5	
1003			19		
藤橋村	岩屑土		0101	2	同上
	黒ボク土	厚層腐植質黒ボク土	0305	8	
	黄色土	細粒黄色土 ク	1002	3	
1003			40		
坂内村	黒ボク土	厚層腐植質黒ボク土	0308	30	同上
		表層多腐植質黒ボク土	0338	1	
	黄色土	細粒黄色土	1003	1	

5. 資料

- (1) 岐阜県農業試験場（1972） 水田及び畑地土壌生産分級図 岐阜西濃地域
- (2) 同 上 （1975） 同 上 揖斐・本巣北部地域
- (3) 岐阜県農業試験場環境部（1979） 地力保全基本調査総合成績書
- (4) 農業技術研究所化学部土壌第3科（1983） 農耕地土壌の分類－土壌統の設定基準及び土壌統一一覧表（第2次案改訂版）
- (5) 土壌保全調査事業全国協議会（1986） 土壌断面をどう見るか
- (6) 揖斐県事務所（1991） 揖斐の農業
- (7) 福富敏夫（1991） 岐阜県の耕地土壌の実態と改善対策

IV 土地利用現況

1 農 地

本図幅内には、揖斐川の支流である坂内川が図幅中央部を西から東へ流れ、図幅の東部を揖斐川が北から南へ流れている。揖斐川と坂内川の合流点付近には、治水、利水、電源開発を目的とした横山ダムがあり、大きなダム湖を形成している。

農地は、これらの河川及びその支川に沿って帯状に分布しているが、主に坂内村の東部を中心にみられる程度である。

これらの農地は、水田としての利用が大半であるが、集落の周辺では畑の分布がみられる。また、久瀬村では茶園が点在し、この地方特産の揖斐茶が栽培されている。

2 林 地

本図幅内の林野率は高く97%を超えており、県全体の82%を大きく上回っている。

所有形態では、地域内の4村で民有林が92%、国有林が8%で、民有林の比率が高い。本図幅内の国有林は坂内村の北西部一帯に広がっている。

人工林は、民有林内に多く分布しており、植生はスギ、ヒノキ、サワラである。

天然林は、広葉樹がほとんどで、南西部にはコナラが多く、北部及び東部はブナが多い。また、北部には伐採跡のササ草地が数カ所みられる。

林地の土地利用としては、比較的降雪量が多いことから久瀬村と坂内村の村境にある日坂峠付近がスキー場として利用されている。また、坂内村には揚水式発電所の建設計画があり、将来的にはかなりの林地がダム湖となる見込みである。

3 市街地・集落等

本図幅中央部を西から東に流れる坂内川沿いに国道303号が走り、図幅の東

部の北から南に流れる揖斐川沿いに国道417号（一部、国道303号と重用）が走っている。集落は主にこれら国道の沿線と図幅南東部の日坂川及び白川沿いに点在している。

1995年3月

印刷発行

岐阜県土地分類基本調査

「横 山」

発行 岐阜県企画部地域振興課

〒500-70 岐阜市藪田南2-1-1

電話 (058) 272-1111

印刷 日新印刷株式会社

岐阜市蔵前2丁目3番1号